

# ICTを活用した「未来の学校」創造プロジェクトの成果報告

## ータブレット端末活用の教育効果と活用事例ー

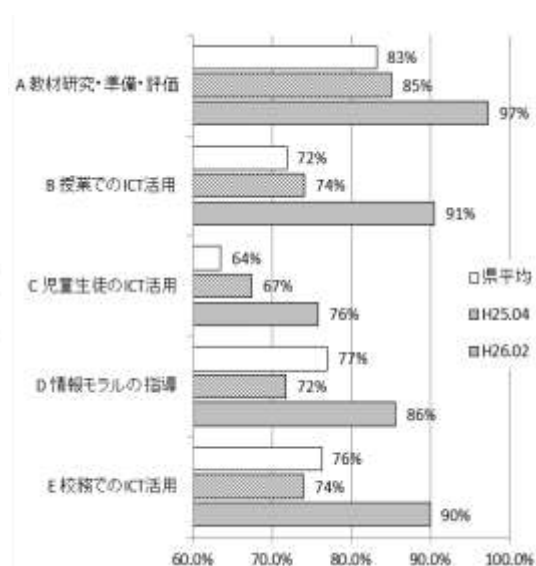
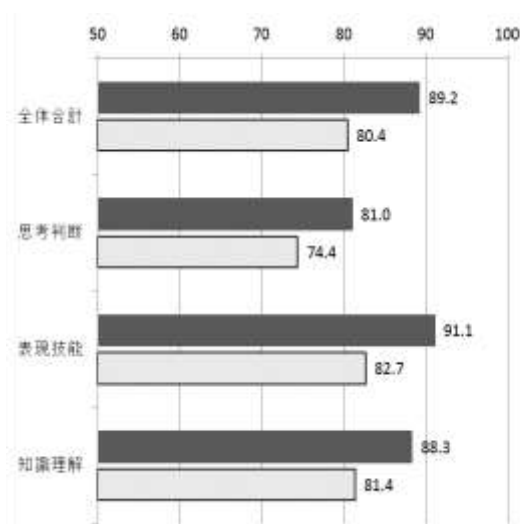
熊本県教育庁教育政策課

### 1 はじめに

熊本県の教育の情報化は、「授業でのICT活用」、「情報教育の推進」、「校務の情報化」の3つの視点に基づいて推進しています。特に、「授業でのICT活用」では、平成25年度から「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト」を重点的に進めており、タブレット端末等を活用した場合、学力向上に直結した教育効果があるのか実証授業を実施しました。さらに、その時の授業実践をICT活用の先進的な活用事例として、今後広く公表していく予定です。

### 2 調査結果

調査研究は、タブレット端末が整備されている県内8校を対象に、活用した授業とそうでない授業を比較分析しました。今回の調査結果では、客観テストの結果、意識調査の結果とも、タブレット端末を活用した授業が活用しなかった授業よりも高い結果になりました。特に、意識調査の結果の中で、「じっくり考えて、自分の考えを深める」、「必要な情報を見つけることができる」という項目で有意な差が見られました。このことについて、タブレット端末は、自分が見たい情報をじっくり選んで見るなど個別化に適しており、学習への理解がより深まることを示しています。



客観テストの比較結果（小中全体） 教員のICT活用指導力の比較結果

本プロジェクトでは、教員のICT活用指導力の調査も実施しました。文部科学省の「教員のICT活用指導力の基準（チェックリスト）」に沿って、平成

25年4月と平成26年2月の2回に回答してもらいました。その結果、8校の教員のICT活用指導力は、タブレット端末活用後、全国平均や県平均と比較しても、特に高い結果となりました。このことは、教師自身が効果を実感できたり、子どもたちの変容が見えたりすることが、ICT活用指導力の向上に大きく影響していることを示しています。

### 3 タブレット端末の活用事例から

タブレット端末の活用事例から、3つの「つなぐ」という特性を紹介します。

まず、「体験と考察をつなぐ」ということです。例えば、体育の実技等でタブレット端末で撮影して、それを再生したり、気付いたことを書きこんだりする学習が展開されます。これは、「体験をして」、それを「考察する」ことを、タブレット端末の撮影・再生によって「つないでくれている」ということです。



次に、「教室と教室外をつなぐ」ということです。例えば、地層の学習をするときに、外に出てタブレット端末で撮影し、それを教室に持ち帰りフィードバックします。そういう意味で「教室」と「教室外」をつなぐツールになります。



最後に、「個人思考と協働学習をつなぐ」ということです。例えば、中学校理科の、音の高低によって波形に違いがあることを学ぶ学習で、様々な楽器の音の波形をタブレット端末に記録し、それをグループ内で持ちより比較分析します。個別に考えたり、調べたりしたことを共有したりして、「個」と「集団」をつなぐということになります。



これらの「つなぐ」というタブレット端末活用が持つ特性を活かすことが、活用のポイントになります。

今後は、効果的な活用場面の検討やOJTを生かしたICT活用指導力を高める研修の充実、支援体制の構築もさらに深めていきます。